

旧閑谷学校に泮池と呼ぶ池があるのを存じだろうか。そこに架かる緩やかなアーチ状の石橋を渡ると、正面に校門があり、孔子を祭る聖廟に向かつて道が延びている。歩を進めると俗界から切り離され、儒教に基づく学びの世界へと誘われるようである。

その泮池で数年前から、外来種のオオカナダモが在来種のクロモを駆逐して大繁殖している。この植物は金魚やメダカを飼う際の水草、あるいは中学校の理科で光合成を理解する実験材料として知られているが、池で泳ぐ鯉には迷惑に見える。鯉が苦しそうだとの声が寄せられ、昨年、重機で根こそぎ駆除したが、あにはからんやすっかり復活した。

今年は岡山県自然保護センターに相談したところ、鯉の給餌で水質が富栄養化し、オオカナダモに栄養分が吸収されている恐れがあり、かつ雑食の鯉はオオカナダモ

岡山県青少年教育センター 香山 真一
閑谷学校 校長

一日一題

在来と外来の格闘

を餌にするので、麩などを与えるのは控えて経過観察することになった。

さて、この池が建設されたころ、わが国では仏教が国教としての地位を固めていた。江戸幕府がキリスト教禁圧を目的に、戸籍管理を担う寺請制度を敷き、人々は家ごとに菩提寺を持つ仕組みになっていた。その中で儒者たちが儒教の冠婚葬祭を広めるのは容易なことではなかった。藩主の池田光政に儒教を開眼させた熊沢蕃山は、親族を土葬にしたが、日本の狭い国土や時勢を鑑み、火葬を容認した。外来思想を根づかせる葛藤に苦しんだのである。

光政の下命を受けた津田永忠は、旧閑谷学校も和意谷墓所も儒教式で建設したが、極めて希有な事業だったのである。

広まらなくてよいものがはびかり、広めたいものが難渋する。とかく人の世は生きにくい。